

星真琴さん(南相馬市健康づくり課)

■ 活動内容

私は作業療法士です。南相馬市健康福祉部健康づくり課母子保健係に配属となり、母子保健事業に携わっています。乳幼児健診(4ヶ月健診、10ヶ月健診、1歳6か月健診、3歳6か月健診)において、各月齢・年齢に合わせた親子体操の実施や保護者の悩みごとの相談対応をしています。また、市内14か所の保育園や幼稚園の巡回相談事業にも同行し、子どもたちに身体の動かし方や遊び方のアドバイスに加え、園の参観日で親子体操の実技指導も担当させてもらっています。

■ 活動を始めたきっかけ

私は宮城県出身で、東日本大震災後のボランティアに宮城県と福島県で参加しました。震災後1~2か月後のことでしたが、その時点で両県の復旧復興に差が出ていることや、福島県には入れ替わりのボランティアではなく、同一人物による長期的な支援が必要ではないかと感じたことがきっかけでした。

宮城県で口蹄疫、鳥インフルエンザや新燃岳の噴火などの災害に見舞われた時、全国からご支援を頂きました。元気を取り戻した宮崎から恩返しの意味も込めて、『今、大変な福島に作業療法士の私で良ければお力添えに行きたい！』と強く想い、福島県に移住しました。



保育参観の様子



4カ月健診個別相談の様子

私たち、頑張っています！

■ 活動を通じて思うこと

何か力になればと来てみたものの、臨床現場では知り得なかったエピソードを子どもや保護者から伺ったり、母子事業で関わったりすることで、逆にこちらが成長させてもらっていると感じています。また、職場の同僚や上司に恵まれ、多職種との連携で地域に関わる仕掛け人となる面白さも知ることができました。

■ 応募を考えている皆様へ

未経験の地方自治体への配属に「足手まといになるのでは？ 迷惑になったらどうしよう。」と不安は拭い切れませんでした。でも、今応募しなかったら、「なんであの時、福島にお手伝いに行かなかったのだろう。」と、後悔する確信がありました。「行ってみなければ分からない、自分にできることは何かあるはず！」と思い、応募しました。実際に「被災地」と言われている南相馬市に移り住んで働いたからこそ気付けたこと、成長できたことがあったと感じています。嬉しいことも辛いこともありましたが、自分の人生において大きな糧になっていることは間違いありません。応募したら、きっと素敵な出逢いが待っていますよ♪

復興庁では被災地の復興のために被災市町村で働く意欲のある方を募集しております。詳しくはコチラ <http://www.reconstruction.go.jp/topics/main-cat9/sub-cat9-3/20161226100112.html>



巡回相談事業の様子



いつも明るく元気な星さん。在職中に南相馬市の職員さんにご結婚され、清山さんから星さんになりました。